# 令和５年度中間期自己評価書

令和５年８月　愛南町立城辺小学校

【評価基準】
Ａ：目標を達成　　Ｂ：８割以上達成
Ｃ：６割以上達成　　Ｄ：６割未満

| 重点目標 | | 目　標 | 評価者 | 目標値 肯定90%以上 | | 判定 | 昨年度 | | | 考察(◆)と改善方策(◇) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 社会総がかりで取り組む教育 | 1 地域の人的・物的環境を活用し、家庭や地域と連携した教育を進めている。 | 教職員 | 100 | A | A | 100 | A | A | ◆おおむね肯定的に捉えられている。地域関係者の評価が上がっている。行事などでの地域人材の活用が進んだためと考えられる。<br>◇見守り隊の方々との対面式、地域の方を招いた参観日や各種行事を通し、児童と地域の人・もの・ことの関わりが順調に復活している。ポストコロナの中で、学校・家庭・地域にとって大切なことをしっかりと見極めながら実施し、２学期以降も信頼される学校づくりにつなげていきたい。 |
| | | | 児　童 | | | | | | | |
| | | | 保護者 | 94 | A | | 94 | A | | |
| | | | 地域関係者 | 98 | A | | 94 | A | | |

| | |
|---|---|
| 学校運営協議会委員の所見 | 【全体について】○評価の段階を見ると、４・３・２が肯定的と考えられ、評価が分かりにくくなっている。（４・３が肯定と捉えて評価している方もいると思われる）<br>○全体的に高い数値で、地域との関わりを大切にして取り組んでいるのが分かる。地域・保護者に協力を得るための苦労もあると思う。<br>○通常の活動が再開され、地域や家庭との関わりを大切にして取り組んでいるのがよい。しかし、すべてをコロナと同じに戻すのではなく、簡略化や精選など負担を減らせるように工夫するとよい。 |
| 学校の対応 | ○今後は、評価の段階を４：当てはまる、３：どちらかと言えばあてはまる，２：どちらかと言えば当てはまらない、１：当てはまらない　とする。<br>○できることとできないこと、工夫できることを見極めながら、今後も地域や家庭との関わりを大切にし、信頼される学校づくりに努める。 |

| 重点目標 | | 目　標 | 評価者 | 目標値 肯定90%以上 | | 判定 | 昨年度 | | | 考察(◆)と改善方策(◇) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 一人ひとりを見つめ、育てる生徒指導の徹底と健全育成の推進 | 2 「いじめは絶対に許さない、見逃さない」学校づくりに努める。 | 教職員 | 100 | A | A | 100 | A | A | ◆教職員・児童・保護者・地域関係者共に高い肯定率である。<br>◆教員の肯定率は100%だが、児童の肯定率は95%である。その５%の違いをしっかりと受け止めるべきである。<br>◇２学期以降も、生活アンケートや教育相談を行うことにより実態を把握し、いじめの早期発見に努め、いじめ見逃しゼロを目指す。<br>◇様々なつながり（教員相互、教員と保護者、教員と地域）を大切に、情報交換しやすい、地域とともにある学校づくりを目指したい。 |
| | | | 児　童 | 95 | A | | 97 | A | | |
| | | | 保護者 | 95 | A | | 93 | A | | |
| | | | 地域関係者 | 97 | A | | 97 | A | | |
| | | 3 一人ひとりを重視した指導に努めている。 | 教職員 | 100 | A | A | | | | ◆教職員・保護者ともに高い肯定率である。<br>◇学校生活の中で、「優しい言動」「違いを大切にする行動」の具現化に努め、互いに尊重し合える人間関係づくりに努める。また、保護者と学校の連携を強めたり、共通理解を図ったりすることで、一人一人に寄り添った指導ができるようにする。<br>◇今後は児童の思いを正確に把握するためにも、児童に対するアンケートに新しい調査項目を入れることを検討する。 |
| | | | 児　童 | | | | ※今年度から | | | |
| | | | 保護者 | 93 | A | | | | | |
| | | | 地域関係者 | | | | | | | |
| | | 4 心を込めた挨拶や優しい言動ができ、規範意識のある児童の育成に努める。 | 教職員 | 100 | A | A | 100 | A | A | ◆地域の肯定率が上がっている。生徒指導主事を中心に「挨拶の大切さ」について指導を継続している成果が表れている。ただし、保護者の肯定率が大幅に下がり、Ｂ判定となった。挨拶については「いつでも・どこでも」できているわけではないので、今後も指導を続ける必要がある。学校の決まりや規範意識について保護者・地域と共通理解を図りながら指導と啓発を続ける必要がある。<br>◇昨年度に比べ、保護者の肯定率が約10%も低下している。学校として、しっかりと受け止めたいが、「挨拶」なのか「優しい言動」なのか、両方なのかが特定しにくい。そこで、質問を２つに分けることや、２学期の学級ＰＴＡ等での話題にするなどの方法を考える。 |
| | | | 児　童 | 93 | A | | 93 | A | | |
| | | | 保護者 | 89 | B | | 98 | A | | |
| | | | 地域関係者 | 98 | A | | 93 | A | | |

| | |
|---|---|
| 学校運営協議会委員の所見 | ○「一人ひとりを重視した指導に努めている。」の項目があるのがよい。<br>○今後も様々な方法でいじめの早期発見に努め、見逃さない体制づくりを続けてほしい。<br>○挨拶、優しい言動、規範意識について、保護者の肯定率が下がっているが、どれがよくないのかを明らかにしたい。挨拶と優しい言動について質問を分けたらよいのではないか。 |
| 学校の対応 | ○今後も児童が悩みや困り感を相談しやすい環境を整え、いじめの早期発見に努めるとともに、問題があれば学校全体で共通理解を図りながらチームで対応する。<br>○挨拶と優しい言動について質問を分け、課題を明確にする。<br>○児童の挨拶や優しい言動の様子について、学校運営協議会や学級ＰＴＡなどで話題にし、学校での様子を伝えるとともに、地域や家庭での様子を把握し、指導に役立てるようにする。 |

【評価基準】
A：目標を達成　B：８割以上達成
C：６割以上達成　D：６割未満

| 重点目標 | | 目　標 | 評価者 | 目標値 肯定90%以上 | | 判定 | 昨年度 | | | 考察(◆)と改善方策(◇) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 確かな学力、豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 | 5<br>授業力の向上（主体的・対話的で深い学び、一個に応じた指導、ＩＣＴ活用）を図る。 | 教職員 | 100 | A | A | 100 | A | A | ◆全体的に高い肯定率である。「１日２回以上クロームブックを使っている」と答えた児童が86％で、オンライン授業や各種アンケートでの活用などもあり、学習用端末の活用が進んでいる。<br>◇まず、教職員が「深い学び」についての研究を推進する。合わせて、デジタルとアナログのベストマッチを含めて、ＩＣＴのより効果的な活用を推進する。また、２学期もたくさんの学校行事があるが、授業の中での個別指導や放課後の補充学習の時間の確保に努める。さらに、授業中の児童の様子や成長・変容、学習内容の定着に向けた学校や学級担任の考えや指導方法等について、ホームページや学校だより、学年通信で保護者に発信していく。 |
| | | | 児　童 | 94 | A | | 96 | A | | |
| | | | 保護者 | 87 | B | | 87 | B | | |
| | | | 地域関係者 | 100 | A | | 100 | A | | |
| | | 6<br>家庭学習の習慣化に努める。 | 教職員 | 100 | A | C | 100 | A | C | ◆教職員は高いが、児童、保護者はともに低い肯定率である。宿題以外に進んで学習するまでには至っておらず、学年別の家庭学習の目安時間が達成できていないと考えられる。<br>◇まず、発達段階に応じた家庭学習の目標時間を実現するために、家庭学習の内容と時間帯等について検討する。また、「チャレンジノートの手引き」の再確認を各学級で行い、自主学習への意識を高める。あわせて、保護者に見守りや確認、励ましの声掛けの協力を依頼する。 |
| | | | 児　童 | 73 | C | | 75 | C | | |
| | | | 保護者 | 74 | C | | 73 | C | | |
| | | | 地域関係者 | | | | | | | |
| | | 7<br>家庭読書の習慣化に努める。 | 教職員 | 100 | A | C | 94 | A | C | ◆教職員は高いが、児童、保護者はともに昨年度末よりも低い肯定率である。学校では読み聞かせ活動やみきゃん通帳の活用などに取り組んでいるが、それを家庭での読書習慣にどうつなげるかが課題である。<br>◇まず、朝読書の時間を確実に継続し、読書への意識を高める。また、宿題として発達段階に合わせた読書の時間を設定することも考えられる。さらに、親子読書の機会を持つなどして、保護者にも見守りや確認の協力を依頼する。 |
| | | | 児　童 | 59 | D | | 65 | C | | |
| | | | 保護者 | 42 | D | | 51 | D | | |
| | | | 地域関係者 | | | | | | | |
| | | 8<br>自己の体力向上・健康保持増進に取り組む態度を育成し、「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発指導に努める。 | 教職員 | 100 | A | B | 100 | A | B | ◆昨年度末よりも肯定率が上昇しており、おおむね肯定的に捉えられている。しかし、できている子とそうでない子、進んで運動する子とそうでない子との二極化が見られる。個に応じた指導や声掛けが必要であると考える。<br>◇まず、熱中症対策を徹底した上で「外遊び」の奨励に努める。昼休みが長い曜日を設定することも考えられる。次に、中・高学年児童には、放課後の陸上練習への積極的な参加を勧める。また、体育科で学習した運動を休み時間や家庭で取り組めるような手立てを工夫する。（目標を設定したがんばりカードの活用など） |
| | | | 児　童 | 88 | B | | 86 | B | | |
| | | | 保護者 | 87 | B | | 83 | B | | |
| | | | 地域関係者 | | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 学校運営協議会委員の所見 | ○先生方が考えて適量の宿題を出していると思う。まず出された宿題をきちんとすることを徹底してほしい。<br>○先生の負担軽減のために、たまには宿題なしの日もつくってはどうか。<br>○学習への興味がわき、楽しくなるように、家族とドリルの競争をするなど、内容の工夫をしてもよいのではないか。<br>○家庭での読書時間の確保は難しいが、読書をするとどんなよいことがあるかということを教え、読書への意欲を高めてほしい。<br>○読書時間だけでなく、冊数を決めて行うのもよいのではないか。<br>○たくさん読んだ児童や、読んだ本の紹介をするとよいのではないか。 |
| 学校の対応 | ○出された宿題をきちんとすることを徹底し、確実にチェックする。<br>○宿題の内容や出し方を工夫する。<br>○学習用端末の活用や、自主学習の内容についての指導・紹介などにより、自主学習への意欲を高める。<br>○親子読書など、家庭で家族と読書できる時間を確保する。<br>○みきゃん通帳の活用を進め、たくさん読んだ児童を紹介する。そして、児童への励ましや言葉掛けなどを行い、読書への意欲を高める。<br>○アンケートの質問を冊数を問うものにする。例：児童　1か月に○冊以上本を読んでいる。 |

【評価基準】
A：目標を達成　B：８割以上達成
C：６割以上達成　D：６割未満

| 重点目標 | | 目　標 | 評価者 | 目標値 肯定90%以上 | | 判定 | 昨年度 | | | 考察(◆)と改善方策(◇) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 地域と連携した安全教育の充実と安全・安心な教育環境の整備 | 9<br>家庭や地域、関係諸機関との連携・協力に努める。 | 教職員 | 100 | A | A | 100 | A | A | ◆全体的に高い肯定率である。各種通信をはじめ、ホームページでの情報発信や、登校指導や行事等での関わりや協力ができていると考えられる。<br>◇まず、通学路や学校施設の安全を意識し、定期的な、また日常的な点検を徹底する。次に、保護者や地域へもホームページや学校だより等で学校の取組を発信し、地域での児童の様子や環境についての見守りを依頼する。また、登校指導時や学校運営協議会、保護者や地域の方が来校した際等に、情報収集に努める。さらに、夏休み中に各家庭で行った通学路安全点検や防災家族会議を、各学年で活用して話し合う機会を設定する。 |
| | | | 児　童 | | | | | | | |
| | | | 保護者 | 94 | A | | 97 | A | | |
| | | | 地域関係者 | 97 | A | | 100 | A | | |
| | | 10<br>防災教育を日常化させ、主体的に防災学習に取り組む児童の育成に努める。 | 教職員 | 100 | A | A | 100 | A | A | ◆全体的に高い肯定率であるが、今後も工夫しながら防災教育や訓練を実施していく必要がある。<br>◇まず、避難訓練や学級活動を通して児童への防災教育を計画的に進める。また、ショートの避難訓練を実施し、危機意識を継続させる方法も考えられる。 |
| | | | 児　童 | 99 | A | | 98 | A | | |
| | | | 保護者 | 99 | A | | 98 | A | | |
| | | | 地域関係者 | 100 | A | | 98 | A | | |

| | |
|---|---|
| 学校運営協議会委員の所見 | ○全体的に高い数値で、継続した取組を希望する。<br>○公民館との連携強化ができるとよい。<br>○いろいろな場合を想定して訓練を工夫したり、実際に地震が起きた時の行動を振り返るなど、これからも防災学習の日常化に努めてほしい。<br>○地域と一緒に何か取り組めるこがあればよい。 |
| 学校の対応 | ○家族防災会議での気付きや防災学習で学んだことを生かし、地域や関係諸機関と連携した取組を行う。<br>○避難訓練や防災学習など、児童への防災教育を計画的に進め、児童の防災意識や危機意識を高める。<br>○学校での取組を積極的に発信し、家庭や地域、公民館と連携しながら防災教育を具体的な行動につなげていく。 |

【評価基準】
A：目標を達成　B：８割以上達成
C：６割以上達成　D：６割未満

| 重点目標 | | 目　標 | 評価者 | 目標値 肯定90%以上 | | 判定 | 昨年度 | | | 考察(◆)と改善方策(◇) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 人権・同和教育と特別支援教育の充実 | 11 差別の現実に学ぶ研修と実践に努める。 | 教職員 | 100 | A | A | 100 | A | A | ◆教職員・児童・保護者共に高い肯定率である。道徳科や学級活動での指導や、若竹委員会の活動を通して、児童に人権意識を育てることができたと考える。学校だより・校長だより・学年だより・ホームページ等で、保護者・地域関係者に発信したことがこの結果につながっていると考える。<br>◇今後も研修に努め、人権・同和教育指導計画を基にしながら、差別の解消につながる意欲や態度・技能を持った児童の育成に努める。また、校区別人権・同和教育懇談会（参観日）で人権・同和教育に関する授業を公開し、学校・保護者・地域との連携・協働に努める。 |
| | | | 児　童 | 94 | A | | 95 | A | | |
| | | | 保護者 | 96 | A | | 96 | A | | |
| | | | 地域関係者 | | | | | | | |
| | | 12 児童一人一人の教育的ニーズを把握した組織的・継続的な指導・支援に努める。 | 教職員 | 100 | A | B | 100 | A | B | ◆全体的に高い肯定率であるが、児童アンケートの中で「先生に相談できる」という項目の肯定率が80%を下回っていた。教師への相談ができにくい児童もいるので、対応や言葉掛けの仕方など、共通理解を図って改善に努める必要がある。<br>◇懇談会、参観日アンケート、電話連絡や学校運営協議会等を利用して保護者や地域関係者が望む「児童一人一人の教育的ニーズ」の把握に努め、指導・支援に役立てていく。<br>◇定期的な生活アンケートや教育相談を活用しながら、普段から「先生に相談できる」人間関係づくりや雰囲気づくりに努める。また、学校として「いつでも、だれにでも」相談できる体制が整っていることを児童にも保護者にも具体的に周知する。<br>◇特別支援教育コーデイネーターの指導の下、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成している児童だけでなく、「困り感」のある児童に対しても、保護者や関係諸機関と連携しながら、組織的に対応していく。 |
| | | | 児　童 | 78 | C | | 87 | B | | |
| | | | 保護者 | 93 | A | | 87 | B | | |
| | | | 地域関係者 | 94 | A | | 94 | A | | |

| | |
|---|---|
| 学校運営協議会委員の所見 | ○現実に学ぶ研修や実践ができている。今後も学んだことを積極的に発信してほしい。<br>○学んだことが実社会での人権意識、グローバルスタンダードな人権意識につながるよう、今後も研修や実践を続けてほしい。<br>○児童が困ったときに先生に限らず、安心して相談できる誰かがいるようにするとよい。質問を「困ったときに相談できる人がいますか」にしてみてはどうか。 |
| 学校の対応 | ○些細なことでも真摯に対応し、児童と教職員の人間関係づくりに努める。<br>○現実に学ぶ研修や実践を続け、学びについて学校だよりなどで発信する。<br>○いつでも、誰にでも相談できる体制になっていることを保護者に周知する。<br>○アンケートや教育相談、児童の様子の観察など、様々な方法で児童の困り感を把握し、学校内だけでなく、保護者や関係諸機関と連携しながら、今後も組織的に対応していく。<br>○質問を「困ったときに相談できる人がいますか」にする。 |

【評価基準】
A：目標を達成　B：８割以上達成
C：６割以上達成　D：６割未満

| 重点目標 | | 目　標 | 評価者 | 目標値 肯定90%以上 | | 判定 | 昨年度 | | | 考察(◆)と改善方策(◇) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 教職員の資質・能力の向上 | 13 校内研修やＯＪＴを通して、資質・能力向上に関する共通理解・共通実践を行っている。 | 教職員 | 100 | A | A | ※今年度から | | | ◆高い肯定率であり、機会を生かして共通理解を図りながら、資質・能力向上のための実践を行うことができている。<br>◇職員構成の特徴を生かし、引き続き組織的に研修を進めていく。 |
| | | | 児　童 | | | | | | | |
| | | | 保護者 | | | | | | | |
| | | | 地域関係者 | | | | | | | |
| | | 14 個人目標の設定に照らし合わせ、「学び続ける教職員」として自己研鑽に努める。 | 教職員 | 100 | A | A | 100 | A | A | ◆個々の目標に合わせ、自己研鑽に努めることができている。<br>◇下半期も引き続き目標チャレンジを中心として資質向上に努める。 |
| | | | 児　童 | | | | | | | |
| | | | 保護者 | | | | | | | |
| | | | 地域関係者 | | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 学校運営協議会委員の所見 | ○教職員はよく学び続けていると感じる。今後も努力・研鑽を続けてほしい。 |
| 学校の対応 | ○今後も研修に積極的に取り組み、組織的に資質向上に努める。 |

【評価基準】
A：目標を達成　B：８割以上達成
C：６割以上達成　D：６割未満

| 重点目標 | | 目　標 | 評価者 | 目標値 肯定90%以上 | | 判定 | 昨年度 | | | 考察(◆)と改善方策(◇) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 業務改善 | 14 校務支援室システムの活用による、業務改善を図っている。 | 教職員 | 100 | A | A | ※今年度から | | | ◆高い肯定率であり、校務支援システムの活用が業務改善につながっている。<br>◇校務支援システムをより使いやすくするための意見をまとめていく。 |
| | | | 児　童 | | | | | | | |
| | | | 保護者 | | | | | | | |
| | | | 地域関係者 | | | | | | | |
| | | 15 働きがいと働きやすさを重視し、業務改善を図っている。 | 教職員 | 75 | C | C | ※今年度から | | | ◆多忙な中にも働きがいを感じられるように、業務改善に努めていく必要がある。<br>◆超過勤務時間が長い教職員もおり心身の健康の維持に課題がある。<br>◇コロナ禍で行事精選に努めた流れを生かし、過多にならない業務改善に努めていく。<br>◇普段からコミュニケーションをとり、風通しのよい教職員集団に努める。<br>◇業務改善に関するアイディアを出し合い、実践することで、生徒指導や児童と関わることに時間を割けるようにしたい。 |
| | | | 児　童 | | | | | | | |
| | | | 保護者 | | | | | | | |
| | | | 地域関係者 | | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 学校運営協議会委員の所見 | ○システムが二度手間となって負担にならないように、確認・改善を行うとよいのではないか。 |
| 学校の対応 | ○コミュニケーションをとって風通しのよい教職員集団づくりに努めるとともに、助け合いながら業務過多にならないようにする。<br>○すべてをコロナ前に戻すのではなく、精選や内容の工夫など、負担を減らせるよう業務改善に努める。 |